

『#テキサスの5人の仲間 (A Big Hand for the Little Lady)』(1965年、フィルダー・クック監督)をamazon prime videoで視聴した。大どんでん返しというキャッチフレーズに惹かれて視聴した。『スティング』(ポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード主演映画。1936年、シカゴの下町で、3人組が思いもよらぬ金額を詐欺で手にするが、それは暗黒街の大物へ届ける金だった。そのため組織の怒りを買って、仲間の一人が殺される。時を経て、その復讐を仕掛ける・・・)に似ているかもしれない。

19世紀末。テキサスきっての金持ち5人が興じる年に一度のポーカーゲームに旅の夫婦が参戦していく。

ギャンブル好きの亭主が妻のいない間に(馬車の修理で)ポーカー勝負をして手持ちの金を全部賭けてしまい、よい手札が来たのに500ドルを追加しないとゲームを継続できない(掛け金は既に総額2万5000ドルになっている)。お金の工面を交渉しているとき、冷や汗を流して、持病の心臓病で倒れてしまう。修理屋から戻って来た妻にゲームの続きを託すのだが、もう賭ける金が無い。そして何と、この妻はポーカーのルールも知らないというのだ。

どうやってお金を工面するか、妻が機転を働かすのだ。妻は銀行に出向き、初対面の支配人から「手札の役」を担保に金を借りたいと申し出るのだ(そんな「手札の役」って一体何だろう?)。果たして、お金を借りることができるのか。そしてこの勝負に勝つことができるのか?

結果は、観てのお楽しみ。しっかり、どんでん返しになっている。

また、邦題の「テキサスの五人の仲間」(原題は婦人の大きな手札の役)にも、工夫があるようだ。

ポーカーの基本的なルール

各プレイヤーに配られた2枚のカードとテーブルに公開される5枚の共有カード(コミュニティ・カード)の合計7枚の中から、最も強い5枚の組み合わせで「役」を作り、その役の強さを競うものである。ゲームの進行は、チップを賭けていき、最終的に役が一番強いプレイヤーが勝者となる。

基本的なゲームの流れ

1. カード配布: 各プレイヤーに2枚のカード(ハンド)が配られる。
2. ベット: 最初に、強制的に一定額のチップを賭ける「ブラインド」が設定される。

3. フロップ：テーブルの中央に3枚の共有カードが表向きに公開される。
4. ベット：プレイヤーは手持ちのカードと公開されたカードを合わせて、役の強さを競う。この際、「フォールド」（ゲームから降りる）、「コール」（相手のベット額に応じる）、「レイズ」（さらに上乗せしてベットする）といったアクションを選択する。
5. ターン：4枚目の共有カードが公開され、再びベットラウンドが行われる。
6. リバー：5枚目の共有カードが公開され、最後のベットラウンドが行われる。
7. ショーダウン：全てのベットが終了した後、残ったプレイヤーは手札を公開し、最も強い役を作ったプレイヤーが勝者となる。
8. 勝者の決定：役が強いプレイヤーが勝者となり、ポット（中央に集まったチップ）を獲得する。
9. 役の強弱：役の強さは、数字の強さ（Aが一番強く、2が一番弱い）と役の組み合わせで決まる。

役の例

- ・ワンペア：同じ数字が2枚揃った役。
- ・ストレート：5枚の数字が連続している役（例：7, 8, 9, 10, J）。
- ・フラッシュ：5枚のカードの絵柄（スート）が全て同じ役。
- ・フルハウス：3枚の同じ数字と、残りの2枚の同じ数字が揃った役。
- ・ロイヤルフラッシュ：A, K, Q, J, 10のストレートフラッシュで、ポーカーで最も強い役である。

ポーカーは、相手をフォールドさせれば（ゲームから降りさせれば）、ハンドの強さに関わらず勝つことができることから、ブラフ（ハッタリ）によって弱い手を強く見せて相手をフォールドさせようとする心理戦の占める割合の高いゲームであるとされる。勝ち負けの数にはあまり意味がなく、勝ったときのチップを大きくし、負けたときの損失を最小にするための総合的な戦術がより重要である。このゲームでは相手を惑わすために、わざと驚いて見せたり、嘘をついたりすることが認められている。掛け金の上限の設定がなければ、金持ちが勝つのではないかな？

評価：★★★★☆